

帝国主義戦争を内乱に転化せよ

帝国主義戦争の問題、現在全世界を制覇している金融資本の国際政治の問題——この国際政治が新しい帝国主義戦争を**不可避的に**生みだし、ひと握りの「先進」強国が立ちおくれた弱小諸民族に加える民族的抑圧、略奪、強奪、絞殺の前代未聞の激化を不可避的に生み出すのである——、この問題は、1914年このかた地球上のすべての国々の政治全体の基本問題となった。これは、幾千万という人々の生死の問題である。これは、われわれの目のまえでブルジョアジーが準備している、そしてわれわれの目のまえで資本主義のなかから成長してくる、つぎの帝国主義戦争では2000万の人間が（1914~1918年の戦争と、いまなお終わっていない、これを補う、いくつかの「小」戦争では1000万の人間がころされたのにたいして）ころされるかも知れないという問題であり、この避けがたい（資本主義が存続するかぎり）きたるべき戦争では6000万の人間がかたわになるかも知れない（1914 - 1918年には3000万の人間がかたわになったのにたいして）という問題である。

この問題でも、わが十月革命は世界史の新時代をひらいた。ブルジョアジーの召使や、エス・エルとかメンシェヴィキというブルジョアジーの太鼓もち、全世界の小ブルジョアのなえせ「社会主義的」民主主義派という太鼓もちどもは、「帝国主義戦争を内乱に転化せよ」というスローガンをばかにしていた。だが、このスローガンはただ一つの**真理**であることがわかった。——それは、不愉快な、味もそっけもない、むきだしの、残酷な真理であるが、それにしてもやはり、このうえなく洗練された無数の排外主義的および平和主義的な欺瞞にたいして**真理**であることが、わかった。こういう欺瞞は、くずれさってしまう。ブレスト講和は暴露されている。ブレスト講和よりいっそう悪いヴェルサイユ講和の意義とその結果は、日ましにますます容赦なく暴露されている。そして、きのうの戦争の原因を考え、また迫りくるあすの戦争のことを考える幾百万、幾千万という人々のまえには、恐ろしい真理が、ますますはっきりと、いっそう明確に、いよいよ避けがたく、たちはだかってくる。その真理とは、**ポリシェヴィキ的闘争とポリシェヴィキ革命によるよりほかに**、帝国主義戦争とそれを不可避的に生み出す帝国主義的世界（もしわが国に旧正字法があれば私はここで「ミール」という二つの言葉をその両方の意味で書くところだが）から抜け出すことはできない。この地獄から抜け出すことはできない、ということである。

ブルジョアジーや平和主義者たち、將軍連や小市民たち、資本家や俗物ども、敬虔なキリスト信者や第二インタナショナルおよび第二半インタナショナルのすべての騎士たちには、この革命を狂人のようにののしらせておくがいい。彼らが、どんな恨みごと、中傷、嘘八百を浴びせかけたところで、数百年、数千年以来はじめて奴隷たちが、公然とつぎのようなスローガンを宣言することによって、奴隷所有者間の戦争にこたえたという事実を、くもらすわけにはいかないであろう。そのスローガンとはすなわち、獲物の分配をめぐって奴隷所有者のあいだに起こっているこの戦争を、すべての国民の奴隷所有者に反対する、すべての国民の奴隷の戦争に転化しよう、というのである。

このスローガンは、幾百年幾千年以来はじめて、漠然とした力のない期待から、はっきりしたわかりやすい政治的綱領に転化した。プロレタリアートに指導される、幾百万というしいたげられた人々の能動的な闘争に転化した。プロレタリアートの最初の勝利に転化

した。戦争の絶滅という事業の最初の勝利、いろいろな国民(国々か…青山)のブルジョアジーの同盟にたいするすべての国々の労働者の同盟という事業の最初の勝利に転化した。ところで、このブルジョアジーは、和睦をするのも、戦争をするのも、資本の奴隷を犠牲にし、賃金労働者を犠牲にし、農民を犠牲にし、勤労者を犠牲にしてのことである。

この最初の勝利は、**まだ最後の勝利ではない**。そしてそれは、未曾有の苦難と困難とを代償とし、前代未聞の苦悩を代償とし、われわれのしでかした多大な失敗や誤りを代償として、わが十月革命にあたえられたのである。おくれた一国民が失敗や誤りをせずに、世界中でもっとも強力な、もっともすすんだ国々の帝国主義戦争に首尾よく勝つことなど、どうしてできよう！ われわれは自分の誤りをみとめることをおそれない。そしてその誤りをどのように是正すべきかを学ぶために、それを真剣に見つめよう。だが事実は依然として事実である。すなわち、奴隷所有者間の戦争には、ありとあらゆる奴隷所有者に**反対する奴隷の革命**で「こたえ」ようという約束は、幾百年幾千年以来はじめて、**完全にはたされたし、……**また、あらゆる困難にもかかわらず、はたされつつある。

われわれはこの事業をはじめた。いったいいつ、どれだけの期間に、どの民族のプロレタリアがこの事業を最後までやりぬくか、——それは本質的な問題ではない。本質的なことは、氷がぐだかれ、行手がひらかれ、道がしめされているということである。

すべての国々の資本家諸君、その偽善をつづけたまえ！ 諸君は、アメリカにたいして日本を、日本にたいしてアメリカを、イギリスにたいしてフランスを、といたぐあい、それぞれの「祖国を防衛している」のだ！ 第二インタナショナルおよび第二半インタナショナルの騎士諸君、また全世界のすべての平和主義的素町人と俗物どもの諸君、帝国主義戦争に反対する闘争手段の問題にたいして、新しい「バーゼル宣言」(1912年のバーゼル宣言にならって)という「形式的回答」をつづけたまえ！ **最初のポリシェヴィキ革命**は、この地上の**最初の1億人という人間**を、帝国主義戦争から、帝国主義世界から、救いだした。つぎにくる諸革命は、こういう戦争から、こういう世界から、全人類を救いだすであろう。 注) ……は本文中の略

第33巻「十月革命四周年によせて」P41~44 1921年10月14日

注) 本文と4-34と14-33とで「十月革命四周年によせて」の全文。